

2024 年 9 月 20 日

2023 年度後期 第 3、4 学年学修成果アンケートの結果と考察

アンケート概要

本アンケートは 2023 年度後期授業最終週から 2 月末にかけてウェブアンケート形式で実施した。学科ごとの回答数、回答率は表に示すとおりである。アンケートの項目内容は各学科の DP に即した内容について「1：全く身についていない」から「5：とても身についた」の 5 件法で回答を求めた。

		3 年			4 年		
学部	学科	在籍者数	回答数	回答率	在籍者数	回答数	回答率
現代ビジネス学部	現代ビジネス学科	94	4	4.26	114	17	14.91
教育学部	教育学科 幼児教育専攻	91	35	38.46	90	50	55.56
	教育学科 児童教育専攻	53	16	30.19	64	29	45.31
	教育学科 健康教育専攻	35	13	37.14	33	16	48.48
生活科学部	食品栄養学科	102	5	4.90	106	29	27.36
	生活文化デザイン学科	58	29	50.00	71	35	49.30
学芸学部	日本文学科	94	23	24.47	109	44	40.37
	英文学科	59	17	28.81	75	18	24.00
	人間文化学科	56	15	26.79	72	31	43.06
	心理行動科学科	72	54	75.00	66	43	65.15
	音楽科	18	0	0.00	15	0	0.00

学修成果アンケートの結果について

学科ごとにそれぞれの DP について学年ごとにどの程度学修についての認識があるか比較を行った。

教育学部 幼児教育専攻

2023 年度 3 年生の回答者は 35 名、回答率は 38.9%であった。2023 年度 3 年生の自己評価を図 1 に示した。すべての項目において、「とても身についた」「やや身についた」と回答した学生は 90%を超えていたことから、これまでの学びを通して身についたと評価している学生が多かったことが読み取れる。

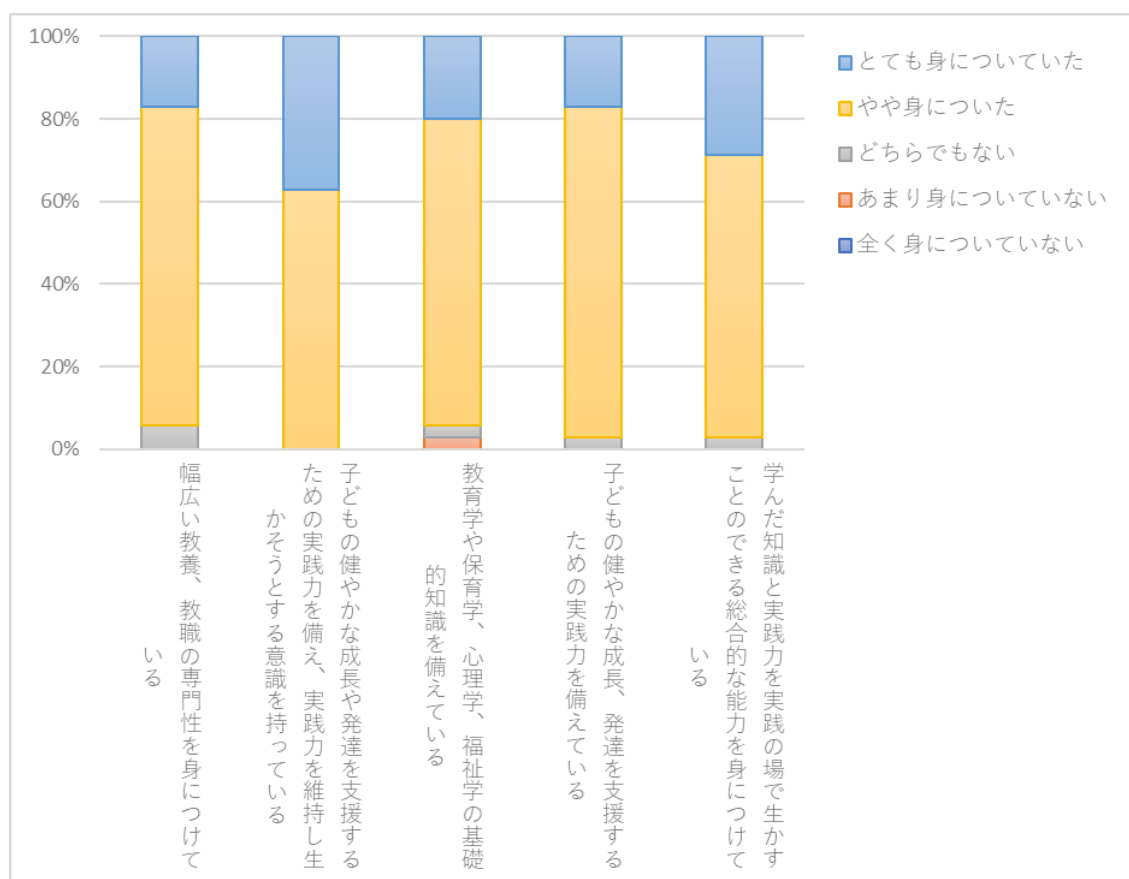


図 1 2023 年度 3 年生の結果 (n=35)

2023 年度 4 年生の回答者は 50 名、回答率は 55.6%であった。2023 年度 4 年生の自己評価を図 2 に示した。すべての項目において、「とても身についた」「やや身についた」と回答した学生は 90%を超えていたことから、これまでの学びを通して身についたと評価している学生が多かったことが読み取れる。また、図 3 の 3 年生と比べると、4 年生のほうが「とても身についた」と回答している学生の割合が高かった。

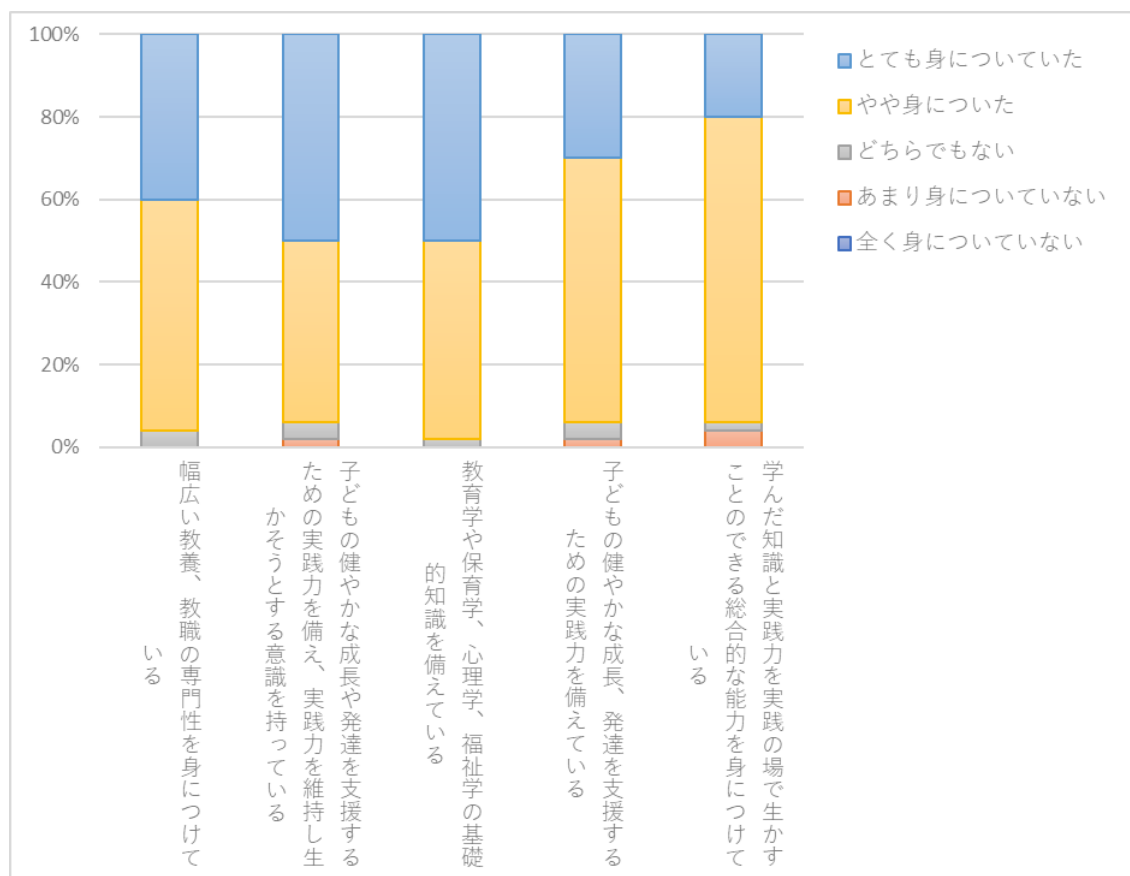
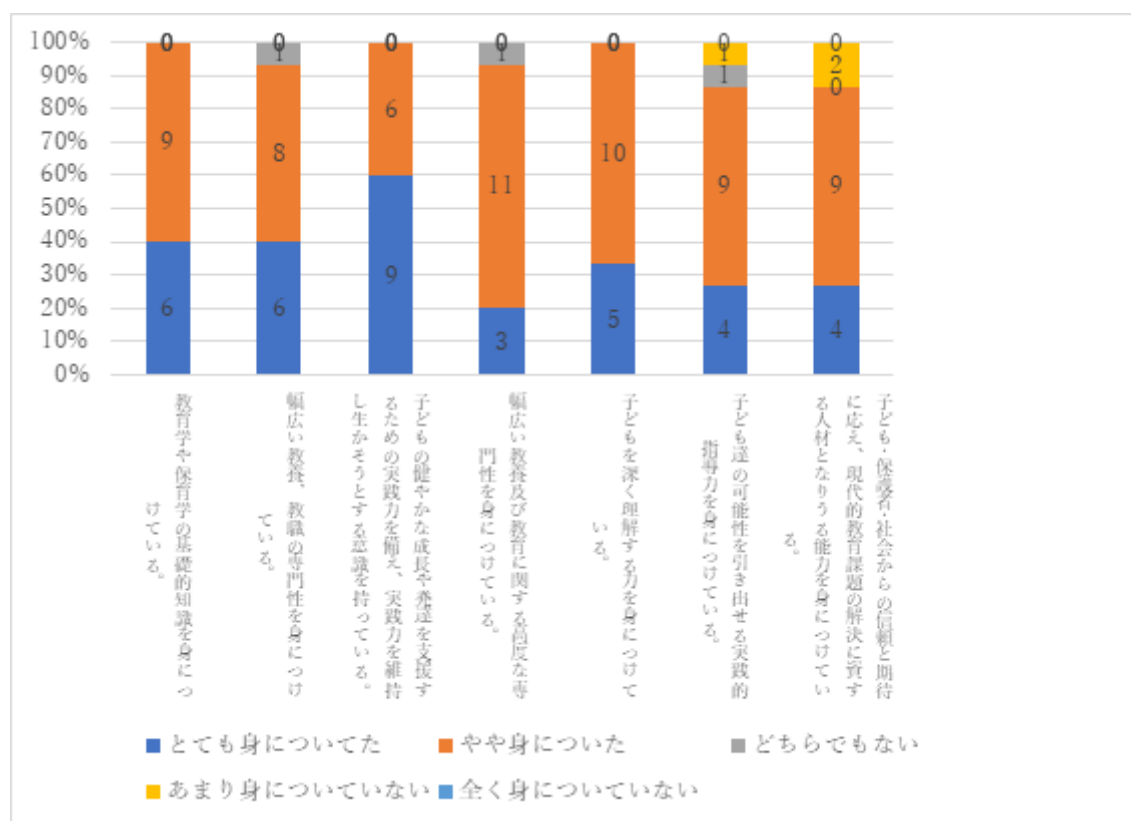


図 2 2023 年度 4 年生の結果 (n=50)

教育学部 児童教育専攻

3 年生について

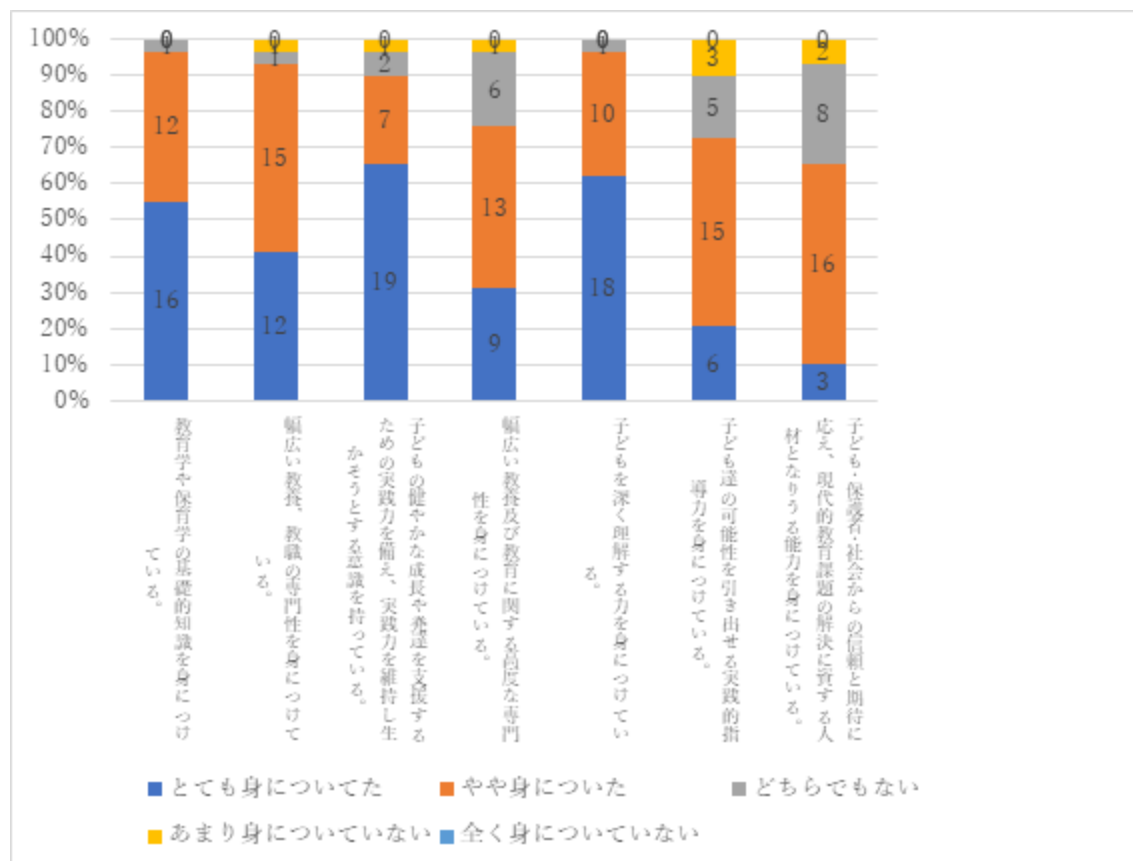
概ね、学生の自己評価は高く、全ての項目において、「とても身についた」「やや身についた」が全体の 80%以上となった。しかし、項目「子ども達の可能性を引き出せる実践的指導力」「子ども・保護者・社会から信頼と期待に応え、現代的教育課題の解決に資する人材となり得る能力」等の応用的な内容については、数名から「あまり身につけていない」という回答が得られた。教育実習等で経験を経て、自身の能力について具体的に考える機会を持ったためと考えられる。



2023 年度 3 年生の集計結果 (n=16)

4 年生について

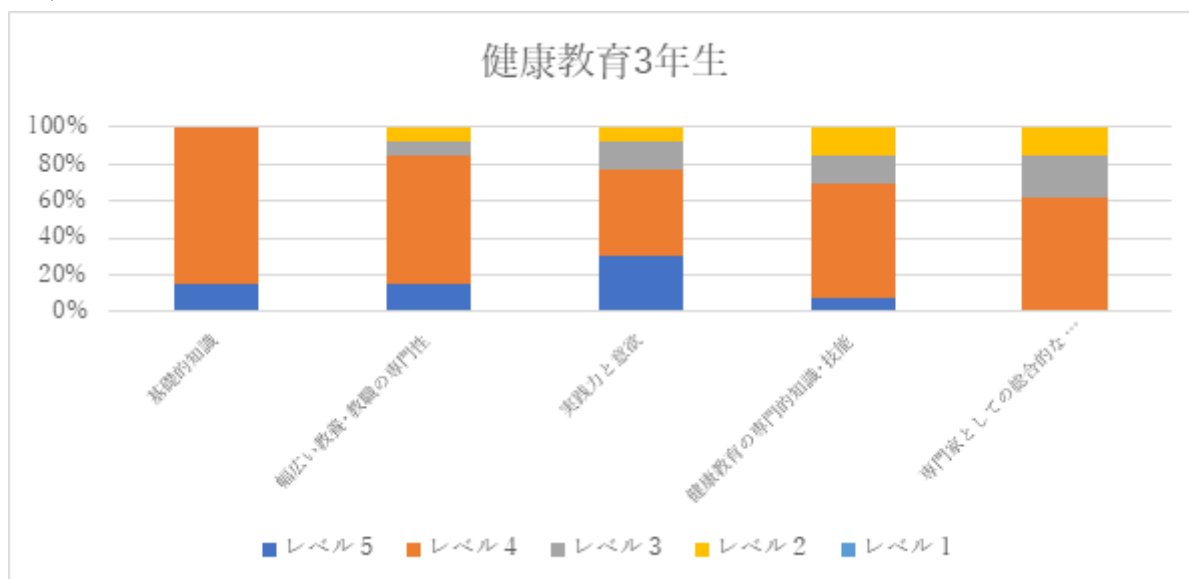
概ね、学生の自己評価は高く、全ての項目において、「とても身についた」「やや身についた」が全体の 75%以上となった。しかし、項目「幅広い教養および教育に関する高度な専門性」「子ども達の可能性を引き出せる実践的指導力」「子ども・保護者・社会から信頼と期待に応え、現代的教育課題の解決に資する人材となり得る能力」について「どちらでもない」という回答が一定数存在し、応用力の成長に課題があることが分かった。



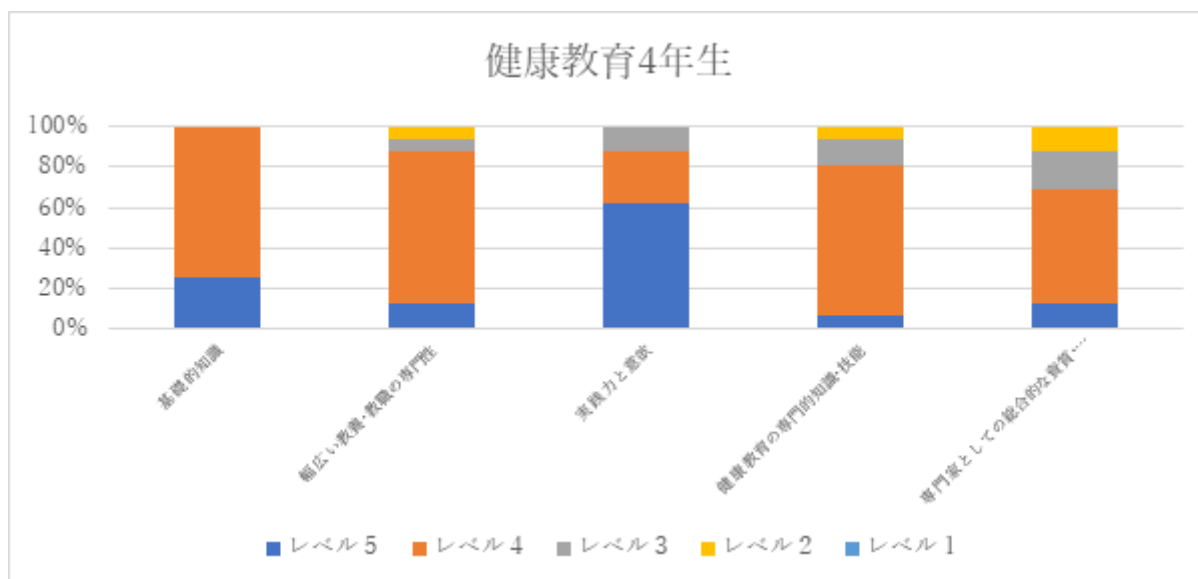
2023 年度 4 年生の集計結果 (n=29)

教育学部 健康教育専攻

3 年生



4 年生



上の図は、3年生・4年生の専門教育科目に関わる学習成果を示した図である。

質問項目は「教育学や保育学の基礎的知識を身につけている」、「幅広い教養，教職の専門性を身につけている」、「子どもの健やかな成長や発達を支援するための実践力を備え、実践力を維持し生かそうとする意識を持っている」、「健康教育の専門家としての専門的な

知識や技能を身につけている」、「専門領域だけではなく、幅広い教養も兼ね備え、専門家としての総合的な資質・力量を身につけている」の5項目である。

3年生と4年生の平均値に注目すると、平均値において差が認められるのは、「子どもの健やかな成長や発達を支援するための実践力を備え、実践力を維持し生かそうとする意識を持っている」（3年生 4.00 4年生 4.44）、「健康教育の専門家としての専門的な知識や技能を身につけている」（3年生 3.54 4年生 3.81）、「専門領域だけではなく、幅広い教養も兼ね備え、専門家としての総合的な資質・力量を身につけている」（3年生 3.46 4年生 3.75）の3項目である。

3年次と4年次において、実践を意識した知識・技能の習得が高まっていることが確認できる。これは、健康教育専攻のカリキュラム構造と平仄を合わせた結果と言えよう。

なお、自由記述においては、専門科目を1年次、2年次において受講したいとの要望もあった。すでに2023年度入学生から、一部専門科目を3年次から2年次に下ろすなどのカリキュラム改訂を実施したところである。

まとめ

学習成果アンケートは、カリキュラム設計を的確に反映している。学年進行とともに、数値は上昇傾向が認められる。この意味で今回のデータからは、カリキュラムの順次性とその適切性を確認できた。

一方で、4学年全体を通じて、評価が高くないことである。この点については、今後の経年変化も踏まえて、適切な改善策を講じて行きたい。

食品栄養学科

3・4年生

F3・4 生生の項目別自己評価ポイントを、それぞれ図1・図2で示した。3年生、4年生ともに、すべての項目でレベル3以上の学生が90%以上であり、自己評価が極めて高かったことが示唆された。各項目の平均値を算出した結果、「広い教養」を除く全ての項目で「やや身についていた」を示す4以上であった。また、4年生では全ての項目において、「とても身についてた」が20%以上であり、「専門知識・技術習得」では50%以上と極めて高かった。したがって、学科の学びにおける学修を高く評価していることが示唆された。ただし、3年生の回答率は5.2%と極めて低く、今後は回答率の上昇を促すことが必要であると考えられた。

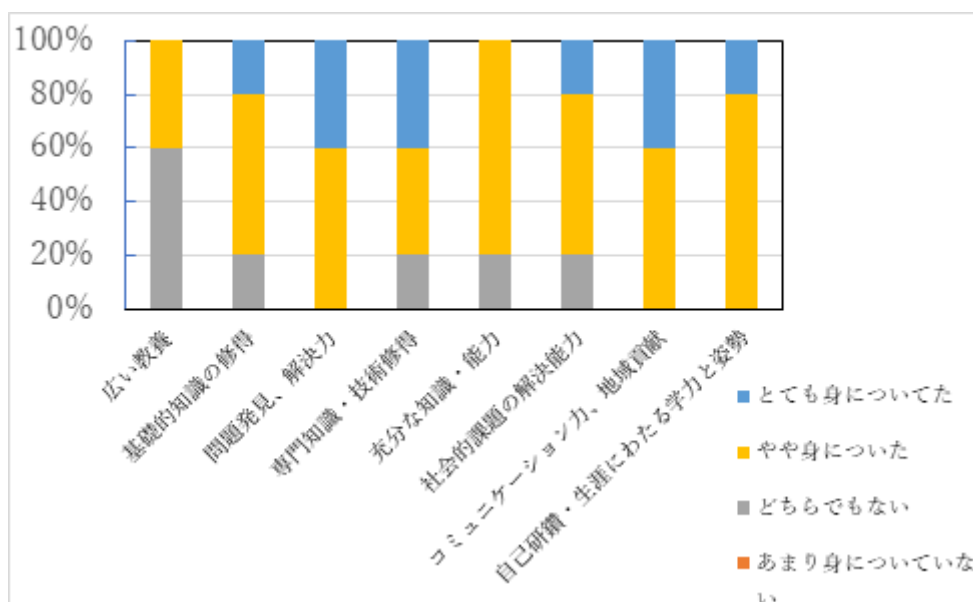


図1. 食品栄養学科 項目別ポイント (F3) (n=5)

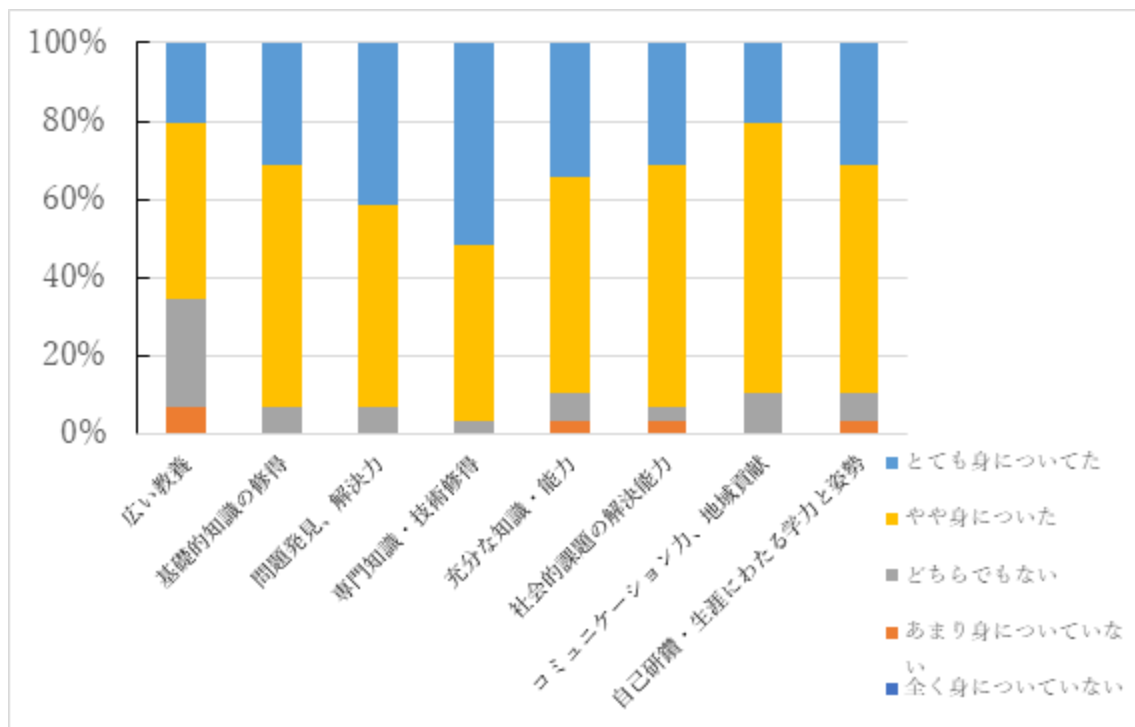


図2. 食品栄養学科 項目別ポイント (F4) (n=29)

生活文化デザイン学科

概ね学年が上がると自己評価のレベルも上昇する傾向に見受けられるが、設問ごとに着目すると、以下のことが考察できる。

1) 「人文科学、社会科学、自然科学分野の広い教養を有している。」について、7 割前後の学生が「身についた」と評価しているが、4 年生で「あまり身につけていない」と評価する学生が増えるのは、就職活動を経て気づきがあったためではないかと推察される。2) 「生活を科学的にとらえるための基礎的知識を修得している。」についても同様。3) 「食習慣・生活習慣・生活文化・生活環境（といった学科が専門とする領域）の問題点を見つけ出し、それを解決する方法を見つけ出す能力を有している。」についても同様。4) 「学科の専門知識・技術を身につけ、専門家として他者の生活の質の向上の支援に関わる仕事をする能力を有している。」も同様であるが、4 年生で「全く身につけていない」と評価する学生が現れ、さらに顕著である。

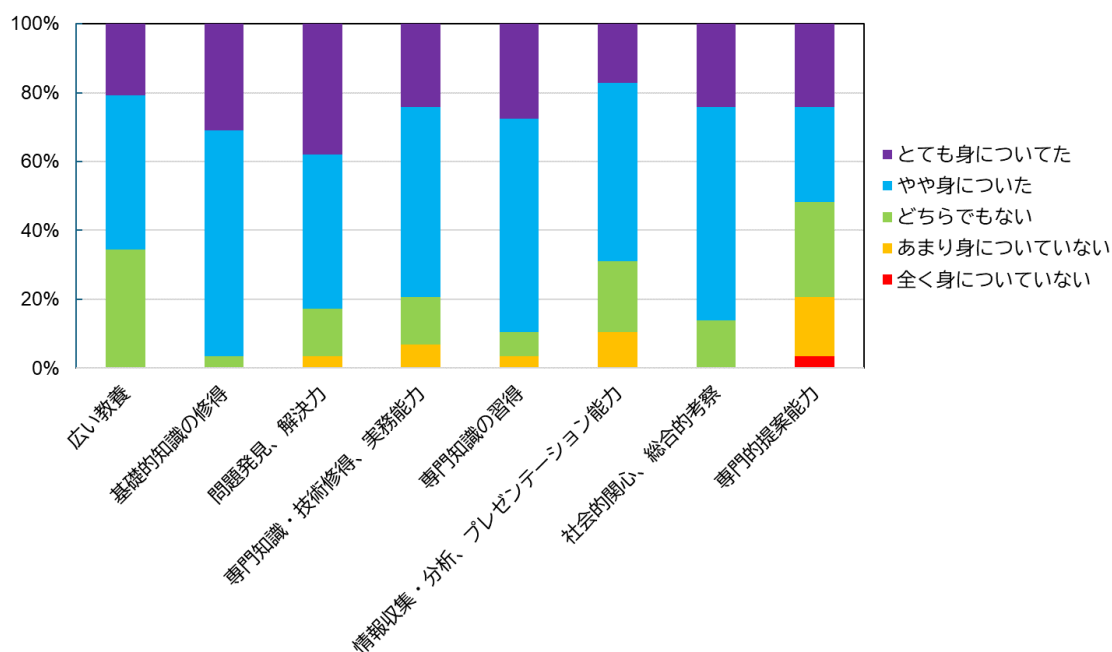


図3 アンケート集計結果<3年 N=29>

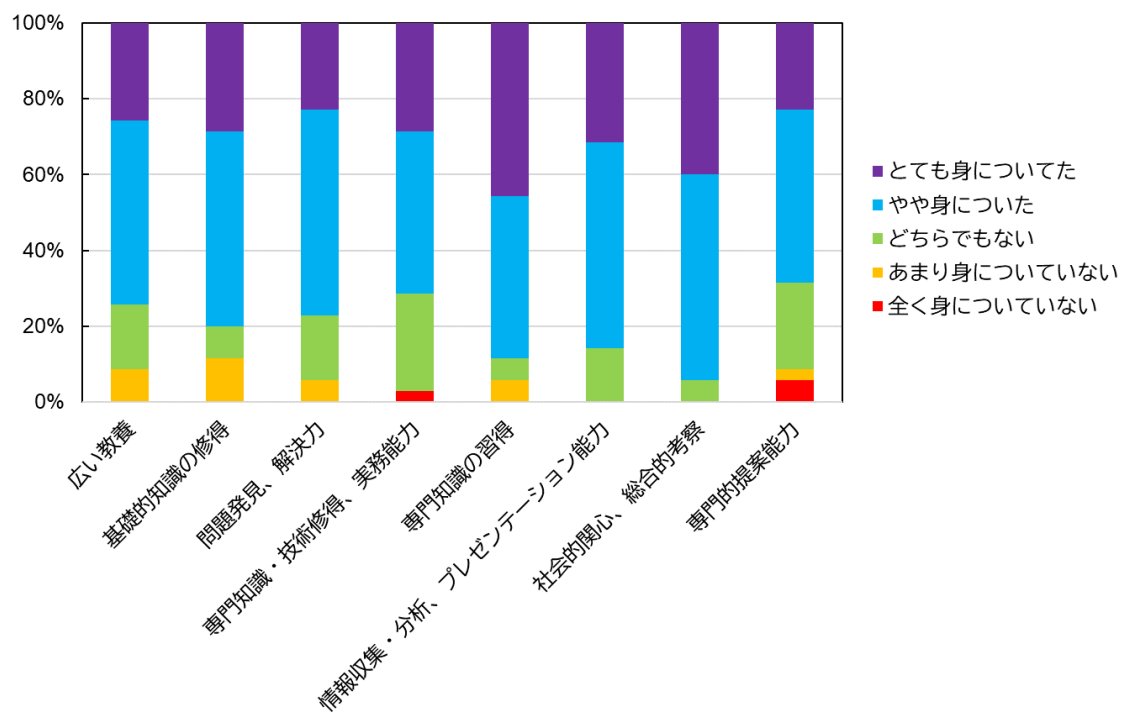


図4 アンケート集計結果<4年 N=35>

日本文学科

3 年生の回答では、いずれの項目でも「全く身についていない」「あまり身についていない」の回答が無く、「やや身についた」の回答の割合が最も高くなった。「やや身についた」「とても身について(ママ)た」の回答を合計すると9 割以上に上る。4 年生の回答では「学科の専門知識や技術に加え、幅広い教養を修得し、現代社会に貢献する能力を発揮できる。」の項目で「全く身についていない」と回答した学生が1 名、「日本のことばと文化について専門的で体系的な知識を修得している。」の項目で「あまり身についていない」と回答した学生が2 名いたものの、「やや身についた」「とても身について(ママ)た」の回答の合計が約9 割を占める結果となった。3 年生・4 年生ともに学修成果の自己評価は高い傾向にある。4 年生で「全く身についていない」「あまり身についていない」と回答した学生がいたことが問題であるが、本アンケートは匿名であり、自由記述欄にも理由などが書かれていないため、詳細な経緯は不明である。

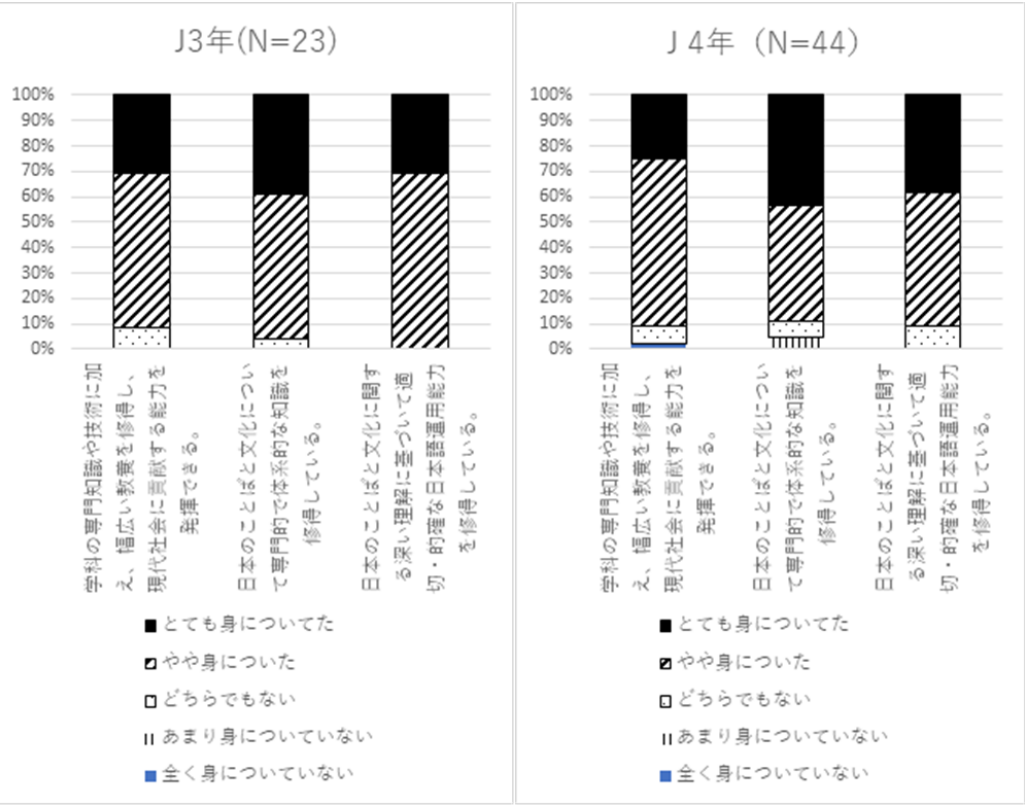


図 3 年生

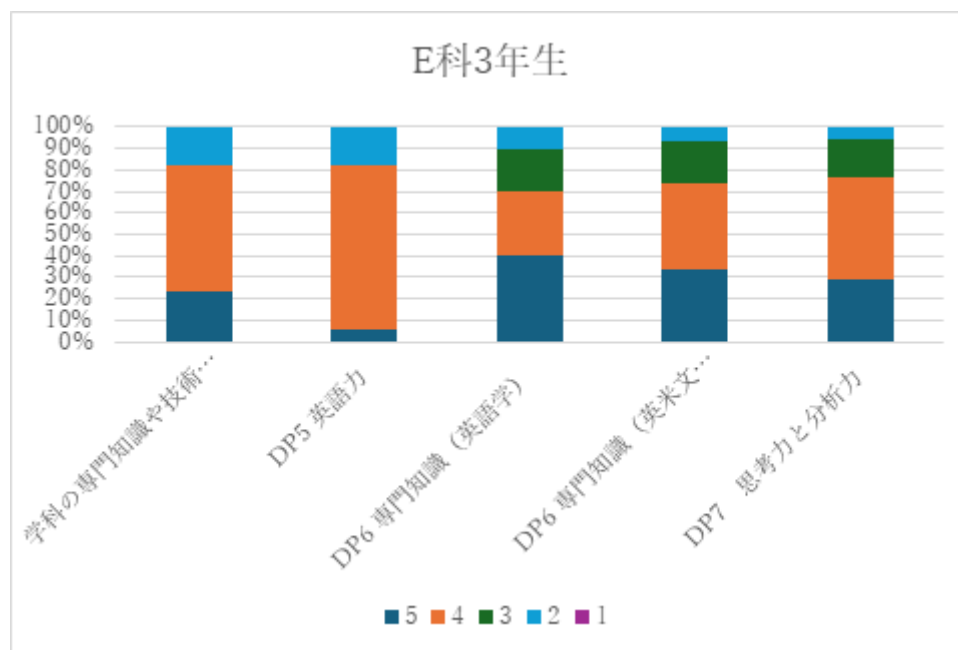
図 4 年生

英文学科

3 年生

DP5 英語力については 4 以上の高い自己評価が回答の 8 割以上を占めているがもっとも高い「とても身についている」を選択する学生は他の項目と比べても非常に少ない。自分の実力を冷静に評価している面もあると思われるが、学生からのヒアリングでは 3・4 年生になってから英語を学ぶ機会が減ったといった声があがっている。2024 年度に一般教育のスキルアップ英語科目に 3・4 年生が履修登録しようとする事例があったことも、英語力をさらに向上させたいという需要があることを裏付けていると考えられる。

DP6 と DP7 専門知識および思考力と分析力においては英語学コースにおいても、英米文学・文化コースにおいても、回答者の 7 割程度が高い自己評価（4 および 5）を持っていた。こちらも 1 年生・2 年生と単純比較はできないが、記述欄への「昨年と比べて知識と経験が増え、自分の将来と今学んでいることを関連づけて考えられるようになった」「学んだことを他のことと結びつけることができるようになった」といった回答からも、少人数ゼミでの指導がはじまる 3 年生になって成長を実感する学生が多いことがうかがえる。いっばうでごく少数ながら、記述欄で「社会で活かせる授業がないと感じたから」と回答した学生もいた。本学科はいわゆる実学系の学科ではないだけに、「社会」との接続に関しては教員が積極的に説明を加えていく必要があるのかもしれない。

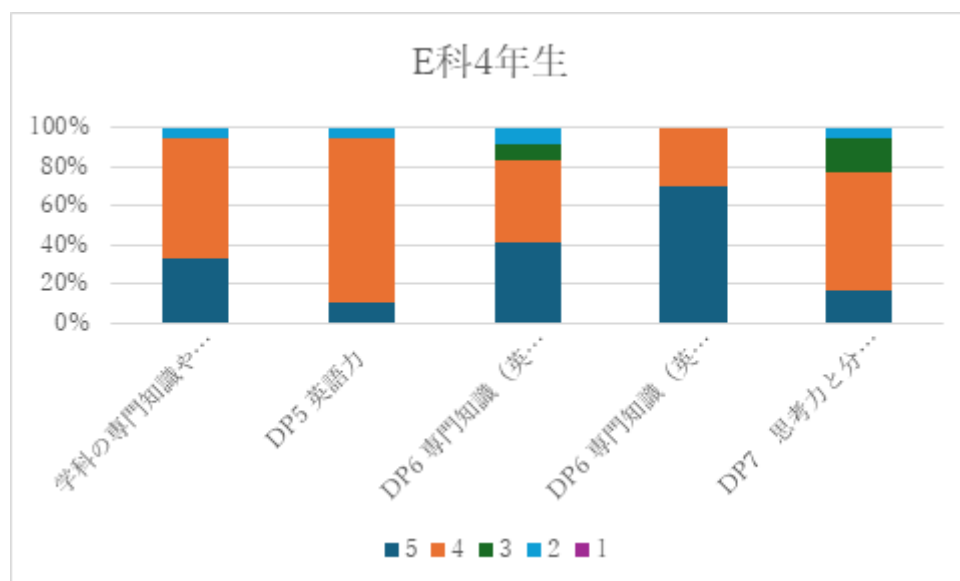


4 年生

DP5 英語力 3 年生の回答と比較すると、肯定的な自己評価が多くなっているが、回答率としては 4 年生が最低であったことを踏まえると、他学年の場合以上に、学業面での取り組みに充実度の高い学生が回答している可能性を差し引いて考えるべきだろう。また、もっとも高い「とても身についている」と回答する学生は全体の 1 割以下に留まっている。

DP6 専門知識 英語学コースにおいても、英米文学・文化コースにおいても、高い自己評価（4 および 5）を示す回答が 8 割以上となっており、3 年生と比較しても全体的に高い値となっている。知識の習得という面においては充実度が高いことがうかがえる。

DP7 思考力と分析力 低い自己評価（1 および 2）を選択する解答はきわめて少なかったものの、最高の 5 を選択した回答者は 2 割以下に留まった。本学科では全員に卒業論文の執筆を課しているため、実際の論文執筆等のむずかしさに直面して控えめな評価となっているとも考えられるが、専門知識と比較してこの項目の自己評価が低いままとなっており、3 年生と比較しても明らかな向上がみられないことは課題といえる。

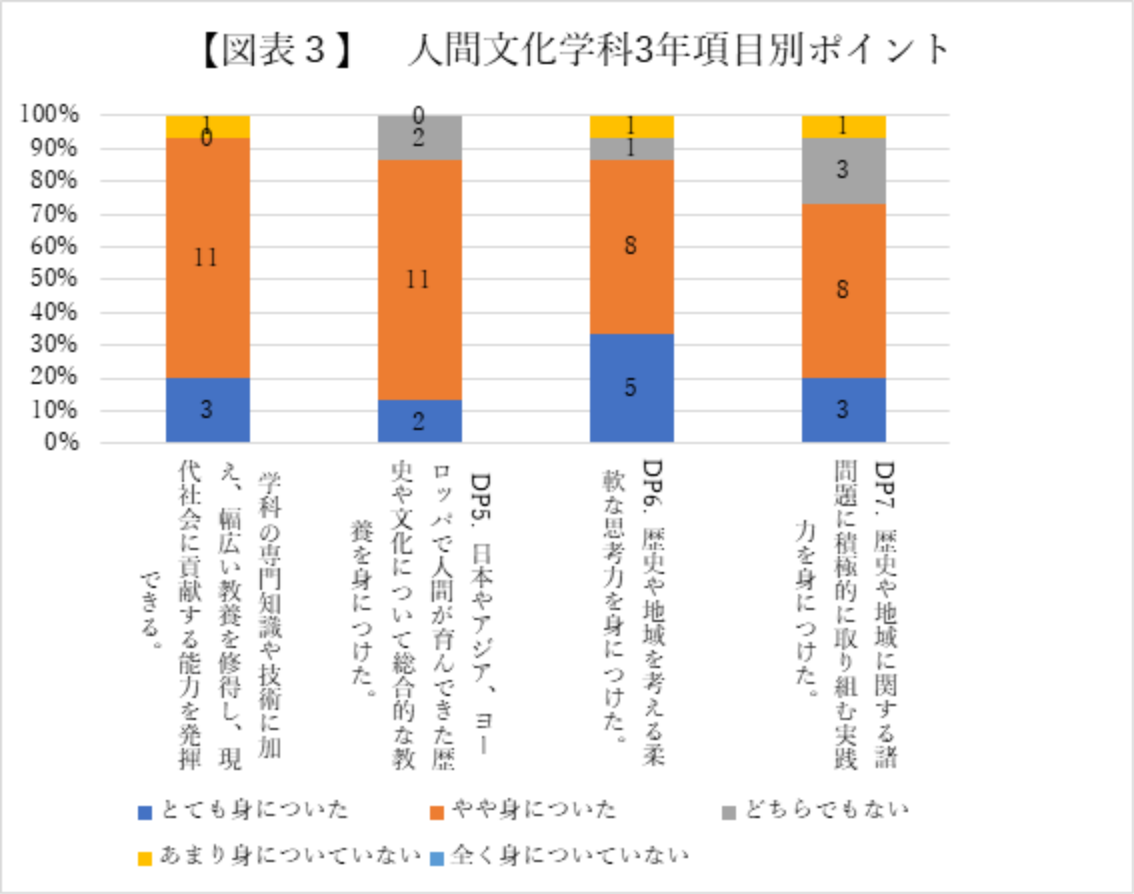


人間文化学科

<3 年>

人間文化学科 3 年生の各項目に対する自己評価は図表 3 の通りである。今回の回答数は 15、回答率は 27%であり、学科全体の状況を表す結果とは言い難い。

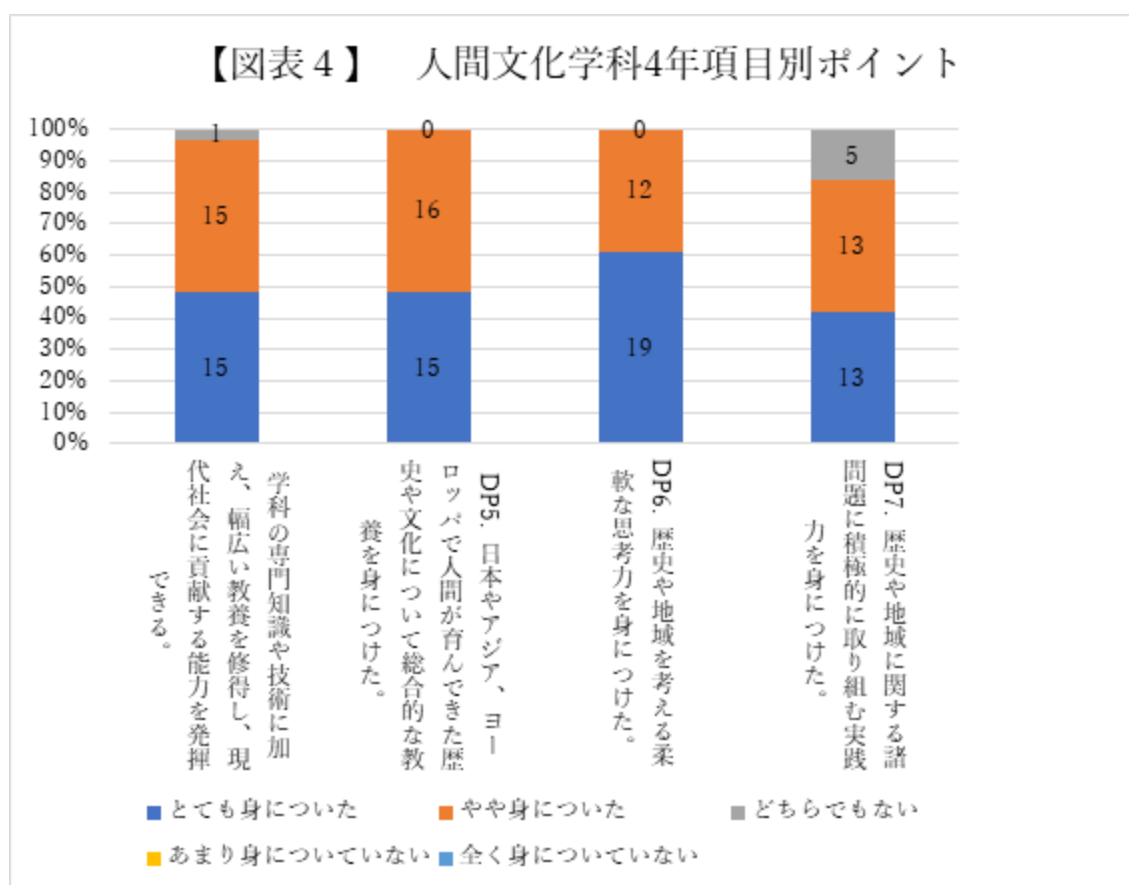
いずれの項目においても、「とても身についた」「やや身についた」とする学生が 70%を超えており、総じて高い自己評価が確認できる。とりわけ、「DP6 歴史や地域を考える柔軟な思考力を身につけた」では「とても身についた」とする学生が 30%以上を占め、高い自己評価がみとれる。



<4年>

人間文化学科4年生の各項目に対する自己評価は図表4の通りである。今回の回答数は31、回答率は43%であり、学科全体の状況を正確に表しているとは言えない。

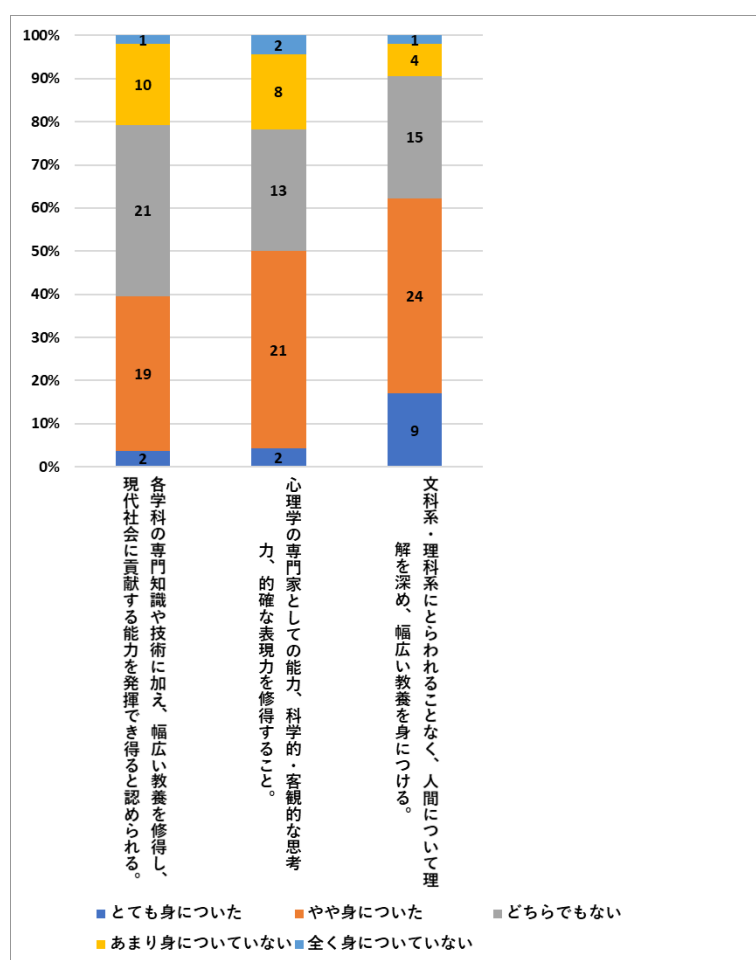
いずれの項目においても、「とても身についた」「やや身についた」とする学生が80%を超え、「あまり身につけていない」「全く身につけていない」とする学生は存在せず、総じて高い自己評価が確認できる。「DP6 歴史や地域を考える柔軟な思考力を身につけた」では「とても身についた」とする学生が60%以上を占めており、きわめて高い自己評価が読み取れる。



心理行動科学科

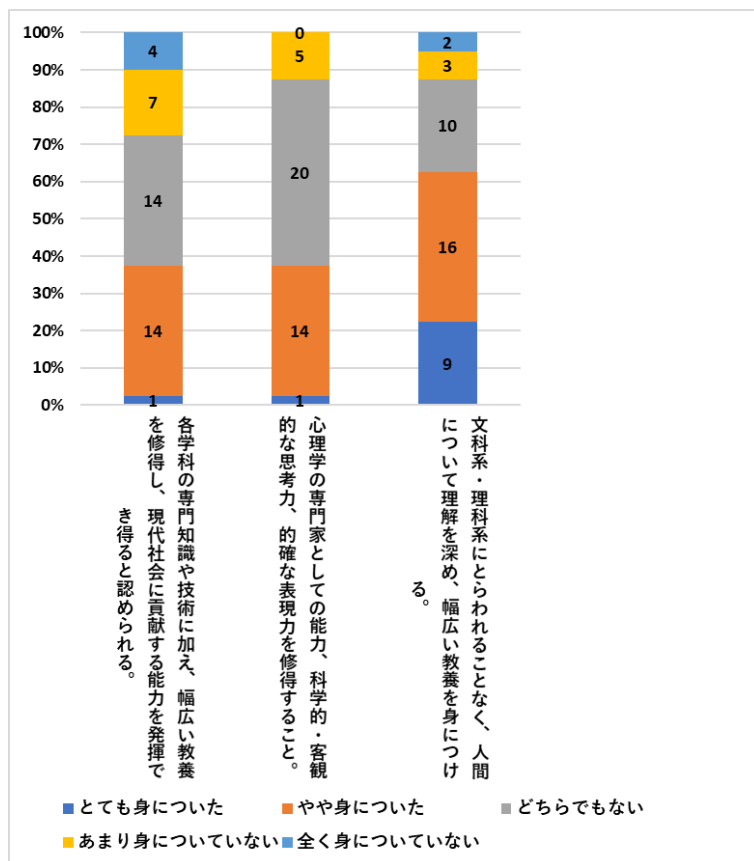
〈3 年生〉

「各学科の専門知識や技術に加え、幅広い教養を修得し、現代社会に貢献する能力を発揮でき得ると認められる」については、どちらでもないと回答する学生が 4 割いるものの、身についたと回答する学生が 4 割いた。「心理学の専門家としての能力、科学的・客観的な思考力、的確な表現力を修得すること」については 5 割程度の学生が身についたと回答していた。「文科系・理科系にとらわれることなく、人間について理解を深め、幅広い教養を身につける」については、6 割程度の学生が身についたと回答していた。



〈4年生〉

「各学科の専門知識や技術に加え、幅広い教養を修得し、現代社会に貢献する能力を発揮でき得ると認められる」については、どちらでもないと回答する学生が4割いるものの、身についたと回答する学生が4割弱いた。「心理学の専門家としての能力、科学的・客観的思考力、的確な表現力を修得すること」については3割強程度の学生が身についたと回答していた。「文科系・理科系にとらわれることなく、人間について理解を深め、幅広い教養を身につける」については、6割程度の学生が身についたと回答していた。



自由記述について

DP についての学修成果を評価した際の理由について尋ねた。

現代ビジネス学科

4 年生

- ・ 特に成長したと感じることがないから
- ・ 社会に出る中で実践できるようなこともあれば、直接何に結びつくのかわからない講義もあったりしたため。しかし、後者の内容であっても人生のどこかではきっと生かされることであると思い、社会人としての自覚を持ちながら日々を過ごしていきたいと思っています。
- ・ 様々な力が身についたと感じますが、英語の授業は 2 年生までの必修授業であったため、力が定着したようにはあまり感じませんでした。
- ・ 地域のビジネスについて、よく知ることが出来たから
- ・ 自分から意欲的に課題を見つけて解決しようとする力は身についたと感じますが、その能力があるかはこれからの自分の行動で発揮されると思うから。

3 年生

- ・ 講義は、広く浅くというイメージで自信を持って身についたスキルがないため。
- ・ 「変動する時代や社会について」ということですが、先生方が昔の価値観に囚われているところがあるので、もう少し最新の時代や社会にあった学習を行いたかった

教育学部 幼児教育専攻

4 年生

- ・ 4 年間の授業に加え、社会福祉士養成課程も含め計 7 回の実習を経て、基礎知識に加えて実践力も培うことができたと感じています。
- ・ 心理の方も多く学んだことで、子どもの発達についてもより学べて、保護者との関わり方などの保育者としての専門性も身につくことが出来たのではないかと思います。実習も行って、知識を活かして実践できたことと、うまくいかなかったところもわかったので、就職して、経験していく中で身に付けたことをいかしていきたいです
- ・ 4 年間を通じて非常にためになる学びばかりでした。入学当初に比べて多少は力が付いたと思ったからです。
- ・ 座学での学びや模擬保育などの実践的な学びが実習でも活かされ、自分の自信に繋がりました。
- ・ 座学を中心に保育や教育に関する様々な知識を習得することができたが、コロナ禍で特に 1 年生～2 年生の時期はオンライン授業が多かったことから、実技的な授業が少なく、実践力が十分に身についたとは思えない。

- オンラインの時と対面の時とで学んだことの記憶定着に差があるから
- 知識は身についたと感じるが、実際に実践する機会は実習の他にあまりなく、得た知識を現場で実践にうつすことができるかどうか分からないため。
- 授業や実習を通してそのように感じました。
- 普通だった
- 専門分野ごとに熱心に教えてくれる先生方がいらっしゃったから。
- 大学の講義で学んだことは頭の中で理解することはできているが実践の場が少なく完璧にできているという自信がないため。
- ある程度は身につけているが、全て完璧に身に付けることができたという自信がないから
- 1年次の学びなどが忘れてしまっていることもあるため。
- 保育だけでなく、心理や福祉分野についても学び、幅広く知識を身につけることができたから。
- 入学時は全てが遠隔授業で、自分自身の知識・経験にあまり自信が持てないため。コロナがあったためと言い訳するつもりはあまりないが、四年生となり、卒業を控えている今、毎日大学に通い、対面で授業を受け、たくさんの人と関わりながらもっと有意義な大学生活を送りたかったと思ったから。
- 就職先でバイトとして働いたときに、専門性がやや身についており、それを生かそうとする意識が身についていると感じたから。あとは場数を踏んでこれから学んでいくことも多いと感じた。
- 数回の実習や実践的な授業が多いため現場で活かせる知識、技術を習得することができたと思う。
- "先生方は学生に意欲があればあるだけ応えてくださる先生方が多かった。また、幅広い教養という面においては、他学科の教科も受講できる環境があり、とても勉強になったと感じている。一方で、西浦先生や守先生、伊藤先生といった方々は価値観が古くいらっしゃるように感じた。教育学等に関する知識は本当に勉強になり、尊敬もしているところではあるが、ご本人のジェンダーに関する意識が低いところが気になった。
- 女子大学であり女性観を含めた「女性と人権」を必修科目にしているのであれば、先生方にも意識してほしいと大いに感じる。"

3年生

- この1年間で、社会福祉科目をたくさん履修し、勉強を頑張ったと思うため。
- 確実に身につけているかまだ曖昧なため
- 意欲的に取り組んでた時もあったし少し気を緩めてしまったところもあったからです
- 本学の授業において、専門的な授業や模擬保育の実践をすることで、保育者に必要なスキルや知識を身につけることができました。また、保育の将来や在り方について考える

機会も多くあり、これから保育を創り上げていく保育者としての考え方を身につけることができました。

- 実習などを通して実践力が身についてきたと感じるから。
- 保育実習や教育実習を通して学びを深めることができたから。
- 実習などの実践をした上で、今まで学んだことを振り返り、保育に関して以外の福祉についてなども学ぶことができたから。
- 公務員試験で出るような内容を勉強出来たかと言われれば、できていないと感じたから
- 講義での知識習得に加え、実習や模擬保育などによって実践力の習得が実現できたと感じているから。
- 授業の中でも模擬授業など実践に近いものが多く取り入れられているため、より実践力が身についたと感じる。
- 公務員試験で出るような内容を勉強出来たかと言われれば、できていないと感じたから
- 保育ということに、学び始めた頃よりもっと興味を持てるようになった。
- 全体的に平均的に身につけていると思ったため
- 多くの実習を通して、自分の力を確かめることができたため。
- 三年生は特に実習をたくさん経験し知識と実践を繰り返し行ったから。

教育学部 児童教育専攻

4年生

- 大学では、模擬授業や実践的な授業が多く、自分事として考える機会が多かったため、様々な知識や教員として必要最低限のことを身につけられたと思うから。
- 実践的な指導についてより具体的に学習することができたと考えるため
- 教育について4年間を通して多くのことを学べたから。
- 大学で学習したことを教育現場で実践できそうだから。
- 大学4年間で、基礎的な知識、教養、教職の専門性は獲得できたと思う。また、子どもを理解する力も大学講義及び実践（実習等）でよく身についたと考える。しかし、自身の実践力や専門性、指導力には、まだ伸び代があるのではないかと感じている。これらを伸ばすためには、一回だけの模擬授業ではなく各教科複数回の模擬授業を試みたり、しっかり振り返ること、そして教育実習などの実践に活かすことが求められると考える。
- 授業・先生によって実践的な内容か、知識的な内容かで異なっているため、身についた授業もあれば、実際に現場で発揮しないとわからないものもあるため。
- 私の目標の一つである、小学校教諭という仕事を志すにあたり、大学での学びや活動をどう活かすかを常日頃から考えながら取り組みました。その考え方を繰り返す中で、大

学外のボランティア活動や自身の学びの姿勢にも活かすことができるようになっていたような気がします。四年生になる来年度はより、具体的に教員として子どもたちの明るい将来のためのサポートができるかを意識し、学びや課外活動に取り組んでいきたいです。

3 年生

- 授業を受けて沢山の専門的な指導を受けてきた。知識としてはある程度吸収することができたが、実践として活かす点で上手く活かすことが出来なかったり吸収しそびれてしまったりした点はいくつかあるのでないかと思ったため、やや身についたと判断した。
- 入学した時に比べて、だいぶ知識も技術も身についたからです。
- 1ヶ月間の教育実習を経て多くのことを学ぶことができたから。
- 教育実習に行き、足りない部分が多くみられましたが、大学での講義で学んだことが身についていることも実感したからです。
- 自分で何のために学ぶのか、学びを教育現場でどう活かそうかを常に考えながら、大学の学びや実習に取り組めたから。
- 入学前より小学校教諭になろうとする気持ちが大きくなったことと、自分の知らなかったことをたくさん知ることができたからです。
- 教育学や子どもを深く理解すること等はできたが、子どもたちの可能性を引き出すことができる実践的指導力は模擬授業や教育実習を通して、自分の実践的指導力が緊張によりできなかった部分が多くあった。そのため学友に比べて時間をかけて教材準備をする必要があると感じたため。
- 学びの機会が沢山あり、実体験や経験談、資料から沢山吸収することができた。しかしコロナ禍の遠隔授業、自分の積極性の足りなさから少しだけ身につけられなかったことがあったと感じたためこのように回答した。

教育学部 健康教育専攻

4 年生

- 専門領域については講義などで身についたと感じるが、幅広い教養などについては教員採用試験を第一目的として理解を深めたと感じるため、「総合的に身についている」点において、「とても身についた」とは感じることはできないから。
- 臨床看護実習、教育実習等、実践的な学びを得る機会が与えられた中で、専門的な知識や教育に関わる者としての教養と人間性を構築してきたが、特に「人の心とは何か」を考える機会が多くあり、教育者として人として成長することができたと感じるからである。
- "養護系の科目はほとんどグループワークだったので、対話力のようなものは身につい

たかかもしれませんが、具合的にどのような知識が身についたかと言われると答えられません。

- 採用試験でよく出題される健康診断や学校環境衛生などもっと座学が多いと良かったです。"
- 学校現場で児童生徒の心身の健康を護る立場である養護教諭になるために、救急処置の方法や教育相談の方法など学ぶことができたと思うから。また、それらのことをどう生かすかということを考えられたと思うから。
- 学校現場にいる先生方と比べればまだまだ足りないのではないかと判断したため。
- "4 年間で教養から保健分野そして体育分野まで、様々なことを学び、身につけることができた。
- しかし、まだまだ自分の知らないことなどがあるため健康教育の専門家とは言えないと思う。
- そのため、これからも学び続け、様々な教養、技能、専門的な分野を学び、健康教育の専門家となれるよう努力していきたいと思う。"
- 完璧に身についたか定かではないから。
- 私自身は最終的には養護教諭の道を選びませんでした。様々な授業を履修し、専門領域のみならず幅広く深い教養を身に付けることができました。「愛のある知性を」という言葉に深く共感し、その抱いた像を自分の中で縁取り、固めるようにして学習してきました。これから生きていく上で、何物にも代えがたい経験ができたことを誇りに思います。形は違えど、子どもの発達を支援する職に就くので、この大学で学んだことを自分の中にしっかりと落とし込んで、子どもの健やかな成長を見守り、支え、その手を引いていけるような人間になりたいと思います。

3 年生

- 実践的なケガの手当てなどを勉強する機会がもっと欲しいです。
- 学びを深めている途中で、知識の習得が完璧であると自信を持って言うことが難しいため
- 専門的な講義や演習を受講できる機会が増えたため
- 看護学の分野が 3 年生から本格的に始まったため手当てや疾患など理解出来ていない事が今の看護学実習でよくわかったから。
- どうしても履修する科目が専門的な内容が多いため

食品栄養学科

4 年生

- 指示ばかりの指導ではなく、自分なりに考えて動く必要のある講義が多かったため、自分の考えを行動に移す経験ができたと思います。

- 大学 4 年間を通して様々な人や環境に触れることで、管理栄養士の資格を取得する知識だけでなく、人としても成長できた気がしたからです。
- 自ら学ぶことができた。
- 職についての知識がとてつつき、日常生活にも役立てている
- 大学で学びを深めていくなかで、常に学び成長していきたいという気持ちが高まったと思うから。
- 私が頑張ったので
- 大学での学びによって視野が広まったと感じるからです

生活文化デザイン学科

4 年生

- 幅広く学べるが、専門知識を深く学ぶことのできる環境ではないと思うから。
- コロナ禍の遠隔授業では課題のやりづらさ、通信環境の不具合、オンデマンドとの双方向型の授業では通学とオンデマンド授業の両立が難しく、基礎が少し不十分に感じたことがあった。
- 授業でだいたいの知識は身についたが、そこまで詳しくはやってないものもあるため。
- 受験資格に当たる講義を全てまでは履修していないため。
- 提案出来るほどの知識が身につけているとは感じていない為。
- 先生方からの熱心な指導や自分で考えて行動したことで身につけることができた。
- プレゼンの授業が多く、短時間で見やすく作る能力が身に付いた
- なんだかんだ広く浅くとべんきょうしていたから
- 専門的な建築分野を学ぶことができたため。

3 年生

- 学科の建築科目について学び、関連する資格取得をすることが出来たため。
- 詳しい内容という面で理解がまだ深まっていないと感じたため。
- 家庭科教員、学芸員、建築士などの資格取得のための講義を取っていないため専門知識は身につけていないが、生活文化やその諸問題について関心や疑問を持つことはできた。
- 3 年間で学んできたことが身につけていると感じているから。
- 元々建築士の資格が取れるために入学した。建築の知識の他に様々な知識を教養として携えることができたように感じているから。
- 先生方の授業を受け身で聞いてしまい、自分から調べたり覚えたりしていなかったから。
- 入学前よりは、学科に関連する分野に対して日常的に視点を置けてきたように感じたから。

- 教員や建築士になるための過程はあるものの、受験しようと考えている人は入学時に比べて減少している印象。人それぞれ様々な理由があるが、大学での学びが受験する学生の減少に影響しているように感じたため。
- 家庭科教員が今、求められていること、これからみんなに伝えなきゃいけないことを知ることができたから。

日本文学科

4年生

- インプットはできたがアウトプットができていないと感じるから
- 大学での生活を通じて日本語の歴史に触れ、言葉遣いを意識する場面が増えたことを実感したから。日本語検定や漢字検定を通じて言葉遣いや漢字についてより深く学び、ゼミでの活動を通じて言語の歴史や意義について学ぶことができ、専門的な知識を習得できたのではないかと考えるため。
- 授業内容が充実していて、学びを生活や就活で活かしたから。
- 知識として得た適切な日本語の運用を日常生活で実践しようと意識していたから
- 4年間を通して、日本語史や日本文化に対する教養はかなり深められたと思っている。また、菊地ゼミでの講義を通して、専門的なデータベースを用いた用例収集を行う機会もあった。しかし、日本語教育についてはあまり受講していなかったこともあり、もう少し積極的に学んだ方が良かったと感じているため、上記のように回答した。
- 言葉遣いに関して周囲の迷っている様子や誤った使い方を耳にした際、自分が使うことを想像して即座に、自信のある言葉が出てくることを実感するから。
- 日本語検定の合格実績や、就活時に「とても22歳とは思えない丁寧なお話の仕方、言葉遣いですね」と言われたことから。
- 人とコミュニケーションを取る上で必要となる日本語についての知識を身に付けられ、今後も役立つと感じたから。
- 様々な授業を通して、幅広い知識を身につけることができたから
- 4年間を通して日本の文学の知識や歴史についての造詣が深くなったように感じたから。
- 専門的な知識や社会に貢献するための力は身についたと実感しているが、幅広い教養は身についたと自信を持って言えないため。
- 大学での授業を通して、専門的な知識に加え、正しい日本語の使い方や自身の考えを論理的に分かりやすく伝える方法など、今後の生活に幅広く活用できるスキルが身についたと感じるから。

3年生

- 日本のことばや文化について専門的に学んだことで高校生の頃よりは確実に知識が増

えたため

- 様々な授業を通して、上記のような知識が身についたと考えたため
- もっと高めていきたいため
- 学んだことが完璧に身についたとは言えないから
- 多くの資料や先行研究を読んで、表現方法やレポートの書き方の幅が広がったと感じるから。
- 誤用されやすい言葉や日本文化の専門用語など、理解した上で会話することができるようになった。

英文学科

4年生

- 様々な学習を通して、様々な視点から物事を捉える力が身についたと感じるから。
- 学力はもちろん、たくさんの経験ができ自分自身が成長できたと思ったからです。
- プレゼンテーションやグループワークを通して、他の人からの意見や感想を聞く経験や、論文作成にあたって、自身で書籍を見つけるところなどが役に立つと感じた。

3年生

- 各ゼミごとの専門分野に特化した先生による考察や専門知識に基づき、自らの研究を進めていくことができたから。
- 文学を通して様々な作品を取り扱うにあたり、話の内容理解が深まるだけでなく、その作品ごとの時代背景も同時に学ぶことができたから。
- 社会で活かせる授業がないと感じたから。
- 昨年と比べて知識と経験が増え、自分の将来と今学んでいることを関連づけて考えられるようになったため。
- 授業でのディスカッションを通して様々な問題を考えて発表することができた
- 英語力の向上以外にアメリカやイギリス文学・文化を学んだことにより、その国の特徴や歴史を学ぶことができ、学んだことを他のことと結びつけることができるようになったから。

人間文化学科

4年生

- どの授業を受けてもアジアの知らない文化を学ぶことができた為
- 他国など学んだことがない文化や宗教について深く理解することができ、自ら他国に行って見てみたいという気持ちが芽生えたから。
- 身についたおかげで様々な視点からニュースや政治、歴史について考えられ十分身についたと感じているから。

- 社会で発揮できるような実践的な力が身に付いたかどうか自分ではよく分からないが、入学前と比べると考え方は確実に変わっていると思うから。
- 1,2年生で幅広く歴史の知識をつけた上で、3年以降に卒論に向けてゼミで活動できたから。
- "アジア、ヨーロッパ、そして日本国内の歴史や文化について知ること、世界には様々な考え方や価値観が存在することや自分の価値観がいかに狭いものであるかを実感させられた。この力を直接社会で生かせるかは分からないが、他者を尊重し自分の中の偏見に自覚的でありたいと思う。
- 私達の学年はコロナの影響を大きく受け、国外のフィールド実習に行くことができなかった。知識はあっても実践力を身につけることができなかったように思う。
- ただ、コロナを理由にして実践を疎かにしていたことは否めない。これから先の長い人生、自分とは違った価値観を持つ人たちとの関わりを恐れず、楽しめるようになりたいと思う。"
- 以前は無関心であったが、ニュース等を見た際に周囲と話すようになったため。

3年生

- 今後社会人となる上で必要な教養や知恵が身に着き、精神的自立に近づくことが出来たと感じるから。また、歴史文化演習では自分の興味を持った分野を突き詰めて楽しみながら学ぶことが出来たから。
- 歴史について学ぶことは出来たが、問題に対して積極的に取り組む術を身に着けたかという点、そうではないと感じたため。
- 講義を受けて、歴史や地域についての知識を得られたから。
- 3年間の国際文化分野の講義を通して幅広い知識を得ることができたため。
- 履修した科目の内容が偏っているため、歴史や文化についての総合的な教養といえるかは分からないが、歴史や地域に対して問題意識を持つこと、問題についてどのようなことができるか、ということについては考える機会が多かったため。
- 課題でそのようなことを取り組んだから。
- 積極的に授業に参加したため